


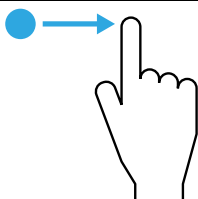
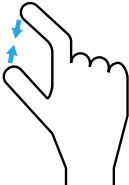



TB162 バーコードスキャナ操作方法

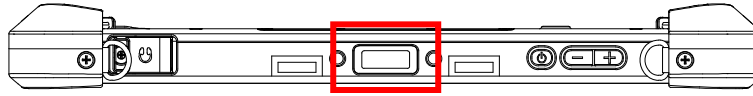
本書は、TB162 に搭載されているバーコードスキャナの操作方法について説明しています。

【タッチパネルでの基本的なタップ操作】

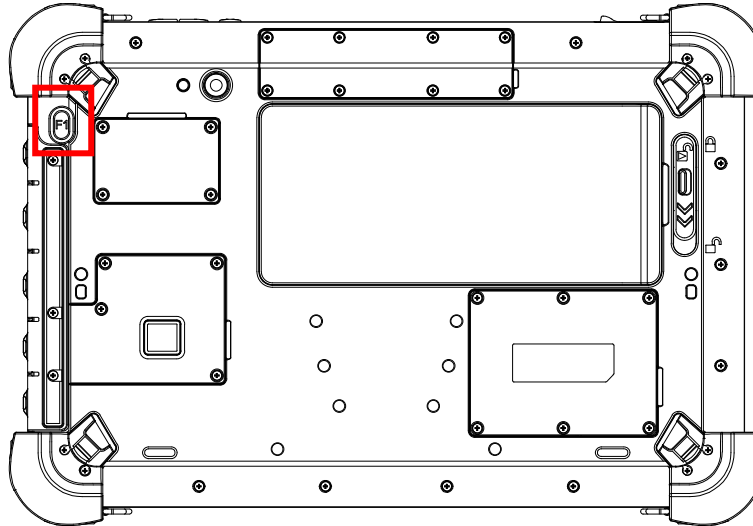
ジェスチャー	【操作名】 操作の説明
	【タップ】 タッチパネルに軽く触れる操作。マウスの左クリックに相当します。
	【ダブルタップ】 タッチパネルに素早く 2 回触れる操作。マウスの左ダブルクリックに相当します。
	【ロングタップ】 タッチパネルに 1～2 秒間触れ続けてから離す操作。マウスの右クリックに相当します。
	【スワイプ】 一点から一点に向けて指をスライドさせる操作。マウスの左クリックしたままマウスカーソルを動かす操作に相当します。対象に触れた状態でスワイプ操作を行うとドラッグになります。
	【ピンチイン】 2本の指をつまむように行う操作。一部のソフトウェア（マップやブラウザ）で縮小を行うための操作です。
	【ピンチアウト】 2本の指をつまんだ状態から開くように行う操作。一部のソフトウェア（マップやブラウザ）で拡大を行うための操作です。

バーコードスキャナ部詳細

バーコードスキャナ読取り窓口



バーコードスキャナ読取りボタン



読取り対応シンボル

- ※ 各バーコードシンボルを読み取るために、設定変更を行う必要がある場合があります。設定変更には設定用のソフトウェアのダウンロードとインストールが必要です。
- ※ 日本語を含む QR コードを読み取るには設定が必要です。
- ※ GS1 系の括弧の出力や AI（括弧に囲まれた 2～4 桁の数字）を編集する機能はサポートしていません。

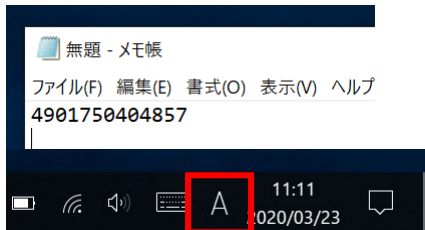
1 次元	Codabar (NW7)、Code 39、Code 32 (PARAF)、Interleaved 2 of 5 (ITF)、NEC 2 of 5 (生協コード)、Code 93、Industrial 2 of 5、IATA 2 of 5、Matrix 2 of 5、Code 11、Code 128、GS1-128、UPC-A、UPC-E0 および E1、EAN/JAN-13、EAN/JAN-8、MSI、GS1 DataBar 系
2 次元スタック	Codablock A、Codablock F、PDF417、Micro PDF417、GS1 合成コード (CC-A、CC-B、CC-C)
2 次元マトリックス	QR Code、Micro QR Code、Data Matrix、Maxicode、Aztec、Han Xin
郵便コード (1 次元)	China Post (Hong Kong 2 of 5)、Korea Post
郵便コード (2 次元)	Australian Post、British Post、Canadian Post、Intelligent Mail、日本郵便カスタマバーコード、KIX Post、Planet Code、Postal-4i、Postnet、Postnet with B and B' Fields、InfoMail

バーコードスキャナ使用時の注意事項

バーコードスキャナを使用する場合、IME を半角英数入力に変更してください。ひらがな入力やローマ字入力では、読み取ったデータを正しく表示することができません。

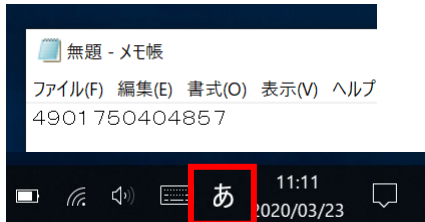
<<半角英数入力の場合>>

正しく表示されます。



<<ひらがな入力の場合>>

読み取ったデータが全角で表示されたりします。



もしも一部の記号を読み取った時に、異なる文字に変化して出力される場合は、後のページで説明している設定ツールを使用して「1.SETTINGS→Interfaces→Keyboard Wedge→Keyboard Modifiers→Keyboard Country」を[Japan ASCII]に変更してください。

※ 標準設定で正しく表示される場合は、この設定を変更しないでください。

<<標準設定>>

「:」の文字が「+」に変化して出力されている。



<<[Japan ASCII]に変更>>

正しく表示される。



日本語を含む QR コード読取り時の注意

日本語を含む QR コードを読み取ると、文字化けして出力したり保存ダイアログが表示されたり意図しない動作をする場合は、**USB 仮想 COM エミュレーションの使用**と、**USB 仮想 COM からデータを受信するためのソフトウェアのインストールと使用**が必要です。



USB 仮想 COM からデータを受信するためのソフトウェアについては、当社が無償提供している **RSWedge™ Unitech 版**（以下、RSWedge）をご利用いただくか、ユーザー自身で用意していただいたソフトウェアをご利用ください。


本書では RSWedge の使用を前提として説明しています。RSWedge をご利用いただくには、以下の Web フォームよりユーザー自身で申請していただき、事前にインストールしてください。

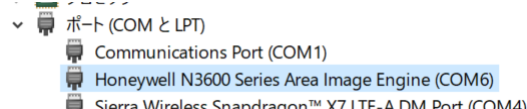
<< RSWedge 申請フォーム >>

<http://www.unitech-japan.co.jp/rswedge.html>

1. 後のページで説明している設定ツールを使用して「**1.SETTINGS→Interfaces→Communications→Interface→Terminal ID**」を[USB serial port emulation]に変更してください。
2. 以下のリンクより USB 仮想 COM ドライバを TB162 にダウンロードしてください。
http://www.unitech-japan.co.jp/public/software/TB162/USB_Serial_Driver3.5.20_signed.zip
3. ダウンロードしたファイルを**ロングタップ→すべて展開**してください。
4. すべて展開したフォルダ内に存在する[setup.bat]を**ロングタップ→管理者として実行**してください。

	README	2020/03/23 11:31	テキストドキュメント	8 KB
<input checked="" type="checkbox"/>	setup	2020/03/23 11:31	Windows パッチ ファイル	3 KB
	silentsetup	2020/03/23 11:31	Windows パッチ ファイル	5 KB

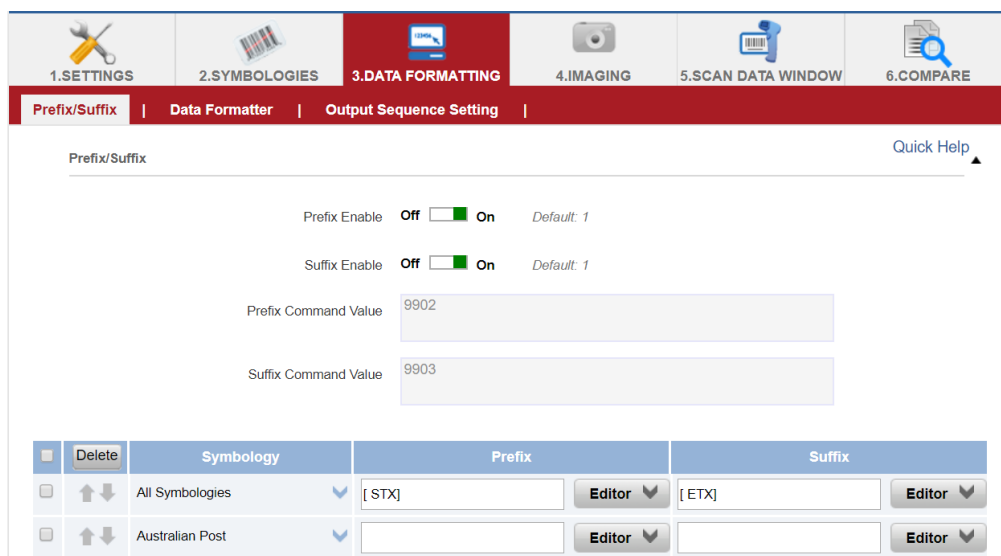
5. セットアップダイアログが表示されたら、[Next >]→[Next >]→[Next >]→[Close]とタップして USB 仮想 COM ドライバをインストールします。
6. [スタート]を**ロングタップ→[デバイスマネージャー]**の順にタップします。
7. [ポート (COM と LPT)]→[Honeywell N3600 Series Area Image Engine (COMxxx)]の **COMxxx** (xx は 1～3 桁の数字) を確認します。スキャナからのデータを受信するために必要な COM 番号です。



8. RSWedge を使用しない場合は以降の手順は必要ありません。以降は、使用するソフトウェアの取扱説明書などを参考に設定してください。
9. 後のページで説明している設定ツールを使用して RSWedge 用の追加設定を行います。

「3.DATA FORMATTING → Prefix/Suffix → Prefix → Editor → Insert ASCII → Control Chars → STX → Finish → Suffix → Editor → Insert ASCII → Control Chars → ETX → Finish」を追加してください。

10. Prefix/Suffix に他の値がセットされている場合は解除してください。解除した値は、RSWedge で設定します。



Prefix/Suffix	Data Formatter	Output Sequence Setting
Prefix Enable	Off <input checked="" type="checkbox"/> On	Default: 1
Suffix Enable	Off <input checked="" type="checkbox"/> On	Default: 1
Prefix Command Value	9902	
Suffix Command Value	9903	

	Delete	Symbology	Prefix	Suffix
	↑ ↓	All Symbologies	[STX] Editor	[ETX] Editor
	↑ ↓	Australian Post	Editor	Editor

11. RSWedge を実行し各パラメータを設定します。RSWedge を 2 つ以上同時に実行すると正しく動作しませんのでご注意ください。
12. [通信設定]の[ポート]を手順 7 で確認した **COM 番号**に変更します。[通信設定]のその他のパラメータは標準のまま変更する必要はありません。



RsWedge(TM) Ver.2.41

通信設定

ポート: COM6

通信速度: 115200

データ長: 8 パリティ: None ストップ: 1

フロー制御: None

13. [受信設定]の[開始コード]ボタンをタップして[STX]をダブルタップして追加するか、[開始コード]ボタン右のテキストボックスに[x02]と直接入力します。同様に、[終了コード]ボタンには[ETX]をダブルタップまたはテキストボックスに[x03]と直接入力します。双方の設定が完了したら、右側の[削除する]チェックボックスにチェックを入れます。

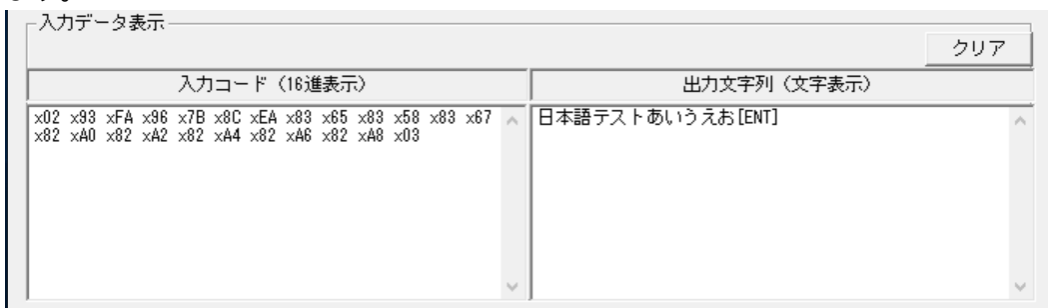


14. バーコードデータ出力後に Enter キーの自動押下を行います。必要無い場合はこの手順はスキップします。

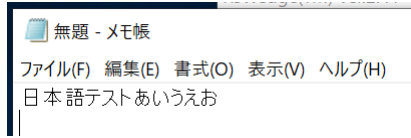
[付加コード設定]の[終了コード]ボタンをタップして[ENT]をダブルタップして追加するか、[終了コード]ボタン右のテキストボックスに[v0D]と直接入力します。Tab キーの自動押下を行いたい場合は、[TAB]のダブルタップまたは[v09]を直接入力します、データの先頭にキーや文字を追加したい場合は[開始コード]ボタンで追加します。



15. すべてのパラメータを適切に設定したら[開始]ボタンをタップします。バーコードスキャナと正しく接続されデータ受信が可能になると[中止]ボタン以外がグレーになります。
16. **TB162 本体背面の F1 ボタン**を押下して希望の QR コードを読み取ります。データが正常に受信されると RSWedge 内の[入力データ表示]の左右のボックスにデータが表示されます。



17. RSWedge 内でデータが受信出来ていることが確認できたら、実際にデータを表示させたいソフトウェアを実行し、**RSWedge を起動したまま**そのソフトウェアを最前面（アクティブ）にします。その状態で希望の QR コードを読み取り、正しい文字列が表示されるか確認してください。



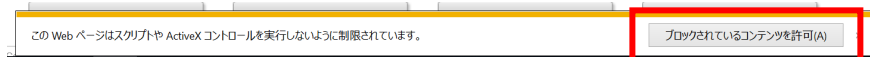
- ※ RSWedge を使用するには、RSWedge が実行されており、正常に[開始]されている必要があります。
- ※ RSWedge が受信したデータは、常に最前面のソフトウェアへ再送信されます。
- ※ RSWedge が再送信したデータは文字入力カーソルの場所に表示されます。Excel であれば選択されたセルの場所になります。
- ※ RSWedge が正しく動作しなくなった場合は TB162 を再起動し、RSWedge を再実行してください。

バーコードスキャナの設定変更

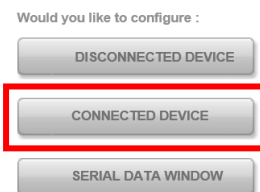
バーコードスキャナの設定を変更するには専用の設定ソフトウェアを使用します。設定ソフトウェア（以下、EzConfig）は以下のリンクからダウンロードできます。

<http://www.unitech-japan.co.jp/public/software/TB162/EZConfig-v4.zip>

1. ダウンロードしたファイルを**ロングタップ**→**すべて展開**します。
2. すべて展開したフォルダ内に存在する**[EZConfig-Scanning XXXXXXX Setup]**を**ロングタップ**→**管理者として実行**します。
3. セットアップダイアログが表示されたら、**[Next >]**→エンドユーザーライセンス許諾書を確認し、許諾できる場合は**[I accept the terms in the license agreement]**を選択→**[Next >]**→個人情報保護方針を確認し、許諾できる場合は**[I accept the terms in the privacy statement]**を選択→**[Next >]**→**[Next >]**→**[Install]**→**[Finish]**とタップしてEzConfig をインストールします。
4. **Launch EZConfig-Scanning vX** にチェックを入れて**[Finish]**した場合は EZConfig が自動的に起動します。チェックを外して**[Finish]**した場合や2回目以降の起動にはデスクトップに作成されるショートカットを利用してください
5. **[ブロックされているコンテンツを許可]**をタップします。（Internet Explorer の場合）



6. **[CONNECTED DEVICE]**ボタンをタップします。



7. **[CONFIGURE DEVICE]**ボタンをタップします。

Note: Click on the device to connect / disconnect



8. バーコードスキャナの現在の設定を受信し設定画面開きます。

9. 設定画面左の各ボタンの機能を次の通りです。

A) **OPEN CONFIG**

EZConfig の設定ファイルを開いて読み込みます。



B) **SAVE CONFIG**

EzConfig の現在の設定値をファイルとして保存します。



C) **SAVE TO DEVICE**

EZconfig の現在の設定値をバーコードスキャナに保存し、スキャナの設定を更新します。



D) **RESET TO DEFAULT**

EzConfig とバーコードスキャナの設定値をすべて初期値に戻します。



E) **GENERATE BAR CODE**

EzConfig で変更された設定値をバーコードとして表示することができます。



10. バーコードスキャナの動作について、よく使用される設定値について下記します。

A) **読取り成功音のミュート**

1.SETTINGS→Input/Output Settings→Beeper Settings→Beeper – Good Read

B) **ブザー音の音量変更**

1.SETTINGS→Input/Output Settings→Beeper Settings→Volume (High→Medium→Low→Off の順に音量が小さくなります)

C) **照準基準読取り**

1.SETTINGS→Input/Output Settings→Scanning Option→Centering→Centering On (0=無効、1=有効)

※照準はバーコードスキャナが読取り中に表示する小さな赤い四角です。

※照準が重なったバーコードのみを読み取る設定ではありません。

D) **バーコードデータの出カインターフェースの変更**

OPOS や USB 仮想 COM エミュレーションへの変更に使用します。

1.SETTINGS→Interfaces→Communications→Interfaces→Terminal ID

E) キーボードレイアウトの変更

一部の記号が誤って出力される場合に使用します。

1.SETTINGS→Interfaces→Keyboard Wedge→Keyboard Modifiers→Keyboard Country

F) プリフィックス（前）・サフィックス（後）の追加

バーコードデータの前後に追加して送信するための文字やキーを追加します。Prefix または Suffix の[Editor]ボタンをタップし、入力したい文字やキーを、Insert ASCII または Insert Keypress から選択して[Finish]で確定します。

3.DATA FORMATTING→Prefix/Suffix→Pefix/Suffix

G) 読み取ったデータを編集してから送信する

たとえば 20 文字のバーコードデータを読み取り、3 文字目から 10 文字目までの 8 文字だけを送信したい場合は、以下のように設定します。

3.DATA FORMATTING→Data Formatter→Data Formatter→Editor→Move the Pointer→Forward→2→Add/Update→Send→A Number of Characters→8→キーボードで Enter キー押下→NUL→Add/Update→Finish

11. バーコードスキャナを読み取り可能なバーコードの中で、日本国内でよく使用される設定値について下記します。

A) Code 128

2.SYMBOLOGIES→Linear→Code 11/128/39→Code 128

Code 128 Decoding	On=読み取り許可 Off=読み取り不許可
-------------------	--------------------------

B) Code 39

2.SYMBOLOGIES→Linear→Code 11/128/39→Code 39

Code 39 Decoding	On=読み取り許可 Off=読み取り不許可
Transmit Code 39 Start/Stop Characters	On=前後の＊を含めて送信する Off=前後の＊を含めて送信しない
Code 39 Check Character	No Check Character=チェックデジットを検証せず、すべての文字をそのまま送信します Validate and Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはすべての文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません Validate but Don't Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはチェックデジット以外の文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコー

	ドは読み取りません
Full ASCII Mode	On=フル ASCII 形式でデコードする Off=フル ASCII 形式でデコードしない
Code 39 Redundancy	数字が大きいほど誤読に対して強化されますが、読取り速度の低下を引き起こします。4 以上の値を使用しなければ誤読するような、低品質のバーコードを使用している場合は、スキャナの性能を損ないますので、バーコード側を改善することをお勧めいたします。

C) GS1 128

2.SYMBOLOGIES→Linear→Code 11/128/39→GS1 128

GS1 128 Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
------------------	------------------------

D) Codabar (NW7)

※宅配会社の運送伝票によく使用されています。

※図書館システムで使用されることがあります。

※電子カルテシステムで使用されることがあります。

2.SYMBOLOGIES→Linear→Codabar/Code93→Codabar

Codabar Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
Transmit Codabar Start/Stop Characters	On=前後の A/B/C/D/a/b/c/d を含めて送信する Off=前後の A/B/C/D/a/b/c/d を含めて送信しない
Codabar Minimum Length	読取り可能な最小文字数を指定します。ここで指定した文字数以下の Codabar は読取ることができません。
Codabar Check Character	No Check Character=チェックデジットを検証せず、すべての文字をそのまま送信します Validate and Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはすべての文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません Validate but Don't Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはチェックデジット以外の文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません
Codabar Redundancy	数字が大きいほど誤読に対して強化されますが、読取り速度の低下を引き起こします。4 以上の値を使用しなければ誤読するような、低品質のバーコードを使用している場合は、スキャナの性能を損

	ないますので、バーコード側を改善することをお勧めいたします。
--	--------------------------------

E) UPC-A

2.SYMBOLOGIES→Linear→UPC Codes→UPC-A

Convert UPC-A to EAN13	On=先頭 0 の 13 桁 JAN コードを読み取った場合、先頭の 0 を削除して 12 桁で送信する Off=先頭 0 の 13 桁 JAN コードを読み取った場合、先頭の 0 を含めて 13 桁で送信する
------------------------	--

F) JAN-13

0 から始まる JAN コードを読んだ際の挙動については前項の UPC-A を参照してください。

2.SYMBOLOGIES→Linear→EAN Codes→EAN/JAN-13

EAN/JAN-13 Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
EAN/JAN-13 Check Digit Transmit	On=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはすべての文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません Off=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはチェックデジット以外の文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません
EAN/JAN-13 2 Digit Addenda	On=2 桁アドオンコードを読取ります Off=2 桁アドオンコードは読み取りません
EAN/JAN-13 5 Digit Addenda	On=5 桁アドオンコードを読取ります Off=5 桁アドオンコードは読み取りません
EAN/JAN-13 Addenda Required	On=2/5 桁アドオンコードを持たない JAN コードは読み取りません Off=2/5 桁アドオンコードを持たない JAN コードも読み取ります。
EAN/JAN-13 Addenda Separator	On=JAN コードとアドオンコードの間に半角スペースを含めて送信します Off=JAN コードとアドオンコードの間には何も含めずに送信します
ISBN On	On=978/979 から始まる JAN コードを 10 桁 ISBN コードとして送信します Off=978/979 から始まる JAN コードも通常の JAN コードとして送信します

G) Interleaved 2 of 5 (ITF)

2.SYMBOLOGIES→Linear→2 of 5 Codes→Interleaved 2/5

Interleaved 2/5 Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
Check Character	No Check Character=チェックデジットを検証せず、すべての文字をそのまま送信します Validate and Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはすべての文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません Validate but Don't Transmit=チェックデジットを検証し、正しいチェックデジットを持ったバーコードはチェックデジット以外の文字を送信し、誤ったチェックデジットを持ったバーコードは読み取りません
Interleaved 2/5 Minimum Length	読取り可能な最小文字数を指定します。ここで指定した文字数以下のコードは読取ることができなくなります。
Interleaved 2/5 Redundancy	数字が大きいほど誤読に対して強化されますが、読取り速度の低下を引き起こします。4以上の値を使用しなければ誤読するような、低品質のバーコードを使用している場合は、スキャナの性能を損ないますので、バーコード側を改善することをお勧めいたします。

H) GS1 DataBar Limited (限定型)

※薬局や病院などの薬でよく使用されています。

2.SYMBOLOGIES→Linear→Others→GS1 DataBar

GS1 DataBar Limited	On=読取り許可 Off=読取り不許可
---------------------	------------------------

I) 合成シンボル CC-A

※血液製剤などでよく使用されています。

2.SYMBOLOGIES→Stacked Linears→Composite Code

Composite Code Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
-------------------------	------------------------

J) Data Matrix

2.SYMBOLOGIES→2D→Data Matrix

Data Matrix Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
----------------------	------------------------

K) QR コード

日本語を含む QR コードの読取りは本書の「日本語を含む QR コード読取り時の注意」を参照してください。

2.SYMBOLOGIES→2D→QR Code

QR Code Decoding	On=読取り許可 Off=読取り不許可
------------------	------------------------

L) 日本郵便カスタマバーコード

2.SYMBOLOGIES→Postal→2D Postal Symbolologies

2D Postal Code	Japanese Post On=読取り許可 2D Postal Code Off=読取り不許可
----------------	---